



ICN #NursesforPeaceキャンペーン - 最新情報 No.5 (2024年7月)

ICNは国連に対し、紛争地域での保健医療スタッフや施設を標的とした攻撃を阻止するためのさらなる行動を要請

ICNのパメラ・シプリアーノ会長は、国連のアントニオ・グテーレス事務総長に書簡を送り、世界中の紛争地域で続く看護師や保健医療施設に対する違法な攻撃を防ぐため、揺るぎない断固とした行動をとるよう求めました。



シプリアーノ会長はまた、保健医療スタッフと彼らが働く施設を早急に保護する必要性を強調した、赤十字国際委員会の『[危機に立つ医療 \(Healthcare in Danger\)](#)』報告書や世界保健医療専門職同盟 (WHPA) の[書簡](#)にも言及しました。

シプリアーノ会長は、「あなたの職権を行使して、世界中で見られる残酷な攻撃への非難を再度表明し、看護師をはじめとする保健医療従事者が国際法の下で与えられるべき保護を再表明するよう求めます。」と記しました。



今回の最新情報では、#NursesforPeaceによる看護師への支援状況についてご報告します。その中には、説明責任や懲罰がないために、保健医療施設に対する意図的な攻撃が続いているウクライナやスーダンの紛争が含まれます。ICNはこの2年間、こうした攻撃の増加に対する深い懸念を強調し、[こうした攻撃の常態化や説明責任の欠如に警鐘を鳴らして](#)きました。5月の世界保健総会での介入、WHPA公開書簡への署名、アントニオ・グテーレス国連事務総長への書簡もその一つです。

2024年3月に発表されたWHPAの書簡は、世界中の保健医療専門職に対し、国際法に沿って、紛争に関わるすべての当事者が保健医療施設及び従事者を保護することを求める公開書簡への署名を呼びかけました。WHPAは、世界中のあらゆる地域で保健医療施設及び従事者を標的とした暴力が続いていることを断固として非難し、紛争に関わるすべての当事者に対し、人道法のあらゆる側面を無条件で支持するよう求めました。

イスラエルとパレスチナ

ICNは、イスラエルとパレスチナ双方の各国看護師協会（NNA）と緊密に連絡を取り合い、支援を続けています。イスラエルNNAは、10月7日のテロリストの攻撃で被害を受けた看護師のメンタルヘルスケアにICNの支援を活用し、パレスチナNNAは、ガザでの医療・人道支援にICNの支援を活用しています。

ICNは国連事務総長宛ての書簡の中で、ガザでの戦闘を終結させるための包括的な3段階停戦を提案する国連総会決議への支持を強調しています。ICNはまた、ガザの人々のための人道回廊と十分な援助を要求してきました。

ICNは、ICNが加盟するWHPAとともに、イスラエルとガザ紛争のすべての当事者に対し、保健医療へのアクセスを尊重・保護し、市民と保健医療従事者の安全を確保するよう、繰り返し呼びかけています。

WHPA会員は全員一致で、いかなる保健医療従事者も危険にさらされることなくケアを提供できるようにすることを支持しています。WHPAは、市民や保健医療従事者の生命を危険にさらすあらゆる行為の即時停止を求め、保健医療へのアクセスは人権であり、保健医療従事者や患者に対するいかなる攻撃も許しがたく、容認できないとしています。

ICNは、紛争が一向に緩和される気配がなく、事態がすぐに収束するというエビデンスもほとんどなく、また、罪のない人々が双方で殺害され続けていることを憂慮しています。戦闘がさらに拡大するリスクがあるため、私たちは紛争当事者に対し、すべての軍事行動を停止し、一刻も早く停戦交渉を行うよう求め続けます。

イスラエル看護協会教育部長のTamar Vechter博士は、ICNが資金を提供した、現在の戦闘の始まりとなったテロ攻撃で成人した子どもを亡くした看護師のためのメンタルヘルス・ワークショップについて報告しました。博士は、イスラエルの看護師に対するICNの支援と貢献に謝意を表しました。こちらの[動画](#)では、娘を殺害された看護師が、2023年10月7日のタマール音楽祭襲撃事件で同じく遺族となった看護師のためのイベントについて語る短いインタビューを紹介しています。

ICNとウクライナ



ウクライナ・キーウのOhmatdyt小児病院をミサイルが直撃した後、瓦礫の撤去と生存者の捜索にあたるレスキュー隊員、ボランティア、医療従事者。（写真：GLEB GARANICH/ロイター）

ICNはウクライナ看護師協会と定期的に連絡を取り合っており、戦闘によって子どもや保健医療従事者を含む罪のない人々の命が奪われる中、特定の人道的・教育的な取組みに資金援助を行っています。

ウクライナ看護師協会は、ICNからの支援を通じて、研修セミナーやウェビナーに資金を提供し、紛争の影響を受けた個々の看護師を支援し、この非常に困難な時期を通して組織を維持することができています。

キーウのOhmatdyt 小児病院の爆撃

ICNは、キーウのOhmatdyt小児病院が爆撃され、2人が死亡し、そのうち1人は保健医療従事者であったと報じられたことを受け、ウクライナ看護師協会に哀悼の意を表しました。ICNは、危機に立つ医療イニシアチブ、及び紛争下における保健医療保護連合（Safeguarding Health in Conflict Coalition）のメンバーとして、看護師をはじめとする保健医療従事者が、恐怖や脅威を感じることなく、すべての患者にケアや治療を提供できるようにしなければならないと確信しています。彼らが仕事をする際には暴力から守られなければならない、彼らが働く保健医療施設は危害から守られなければならない、保健医療施設及び従事者を保護する国際規制とジュネーブ条約は尊重され、順守されなければならない。

ICNハワード・カットン事務局長（CEO）：



「これまで戦闘の恐怖に耐えてきた一般市民が、さらなる苦痛にさらされないようにするためには、保健医療従事者を攻撃や暴力から守ることが最も重要です。罪のない子どもたちが巻き込まれれば、一層ショックが大きくなります。」

ウクライナ看護師協会

Tetyana Chernyshenko会長からの最新情報

「残念なことに、ウクライナでの戦闘は続いており、それはもちろん、ウクライナ人の日々の暮らしの中で生じる恐怖に現れています。戦闘は兵士や子どもたち、成人の命を奪い、重傷を負わせ、家や教育機関、保健医療機関、エネルギーを含むインフラ施設を破壊しています。」

このような状況を踏まえ、ウクライナ看護師協会は看護師から会費を徴収していませんが、可能な限り活動を続けており、看護師が専門資格を維持できるよう、オンラインで教育セミナーを開催しています。現代的な状況を考慮した保健医療施設内の消毒剤の選択に関するセミナーには、ウクライナの全地域から750人以上の看護師が参加しました。



Chernyshenko会長は最新のメッセージの中で、ICNの#NursesforPeaceキャンペーンからの資金援助により、数百人の看護師が「戦時下の動員への備え」という難しいテーマに関するオンラインセミナーに参加することができたと述べました。

Chernyshenko会長は次のように述べました：「ウクライナ看護師協会が主催したこのウェビナーは、ヴォロディミル・ゼレンスキー大統領が、国内の動員手続きに関する政令を発布した後、必要不可欠なものでした。すべての看護師と医師が兵役登録されており、これは何よりも懸念を抱かせています。セミナーには、ウクライナの全地域から497人の看護師が参加しました。」

また、Chernyshenko会長は、ウクライナにおける看護師のユニフォームの極度の不足に対応するために、ICNに支援を要請しました。

ICNはProject Kesharの支援を継続



ICNは、ウクライナのドネツク地方で、看護師による地域の患者への訪問に劇的な効果をもたらしている、革新的な電動自転車による移動スキームへの支援を続けています。軍事作戦で大きな影響を受けた最前線の都市クラマトルスクには、1つの市立病院、12の外来診療所、12の救急・助産ステーションがあり、市外にいる50人の医師が、到達困難な地域でより効率的に移動する方法を必要としています。このネットワークは、156.5平方マイルの地域にサービスを提供しており、交通の便が悪い15の遠隔地の村が含まれています。

医師75人、看護師152人、准看護師46人を擁する同センターは、高齢者や障がい者に重要な在宅医療サービスを提供しています。電動自転車プロジェクトは、月間45,000件の訪問診療をサポートするまでに拡大し、夏の終わりには60,000件まで増える見込みです。この進展はICNの支援により初めて可能になりました。同センターが現在所有している救急車4台とバス2台は、いずれも55年以上使用されており、大規模な修理が必要であることを考えると、この改善は特に重要です。

ICNとスーダン



ICNはスーダン看護師協会（SNO）を支援する取り組みを続けており、資金は紛争下におけるSNOの能力向上プログラムを強化するために使われ、現在3年目に入っています。ICNの資金は、戦災を受けた3都市で活動するSNOの救急対応チームの支援にも充てられています。

ICNの資金は、以下のようなスーダンの看護師・助産師の能力向上のために使われています：

- 3都市からの45人の看護師に対するSNO救急対応チーム（ERT）研修。ERTは、事態が発生した際に迅速に対応し、最も必要とされる場所に迅速に派遣されます。
- 紛争地域における、看護師、助産師、地域の保健医療従事者、医学生を含む保健医療従事者の能力開発を安全な時間と場所において実施。



スーダン看護師協会（SNO）Mowafag Hassan会長からの状況報告

SNOのMowafag Hassan会長から、スーダンの状況と、看護労働力と救急対応チームの能力向上のためのICN資金の重要性に関する最近の報告をお送りいただきました。

「2024年4月15日、スーダンは人道サービスへのアクセスが乏しく、保健医療システムも崩壊した状態で、戦闘2年目に突入しました。それ以来、首都ハルツームをはじめとするスーダン各地で、スーダン軍（SAF：スーダン共和国軍）と即応支援部隊（RSF：強力な準軍事組織）の間で激しい戦闘が続いています。

スーダンの保健医療システムは、施設の損傷や物資・スタッフの不足など、強いプレッシャーに直面しています。広大なダルフル各州では、重要な物資と施設を運営する人材が不足しているため、保健医療施設の70～80%が機能なくなっています。

紛争激化以前に避難をしていた380万人に加え、2023年4月以降、790万人以上が強制的に避難を余儀なくされています。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）によると、約172万人が国境を越えて近隣諸国に避難しています。

暴力に起因する怪我や予防可能な病気によって患者が死に、栄養失調によって子どもたちが命を落としています。ワクチンは底をつき、コレラやはしかを含む致命的な病気がすでに拡大しています。

2023年4月から2024年4月にかけて、SNOは1,268人の保健医療従事者（看護師、助産師、看護・助産学生、医師、医学生、薬剤師）に対し研修を実施しました。SNOはまた、北部コルドファン、北部州、ハルツームにおいて、心理的ファーストエイド、一次救命処置、応急処置、報告書作成、チーム構築、感染予防・管理、保健医療従事者の倫理など、スーダンにおける救急対応能力を構築しました。オムドゥルマンと北部州では、ジェンダーに基づく暴力に関する啓発キャンペーンが実施されました。」

#NursesforPeaceキャンペーンの支援方法

ICNは、緊急事態の最前線で働く看護師のための資金を調達し、公衆保健医療システムに関連する脅威への人々の注目を集めるため、#NursesforPeaceキャンペーンを開始しました。ICNの#NursesforPeaceキャンペーンを支援するために、[今すぐご寄付](#)をお願いします。